

Colony Tokyo コロニーとうきょう

Vol.

123号

2002 (平成14) 年
1月1日発行

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-2
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)

賀正



アートバンクギャラリー 52 作者 夢村さん (詳しくは15頁をご覧ください。)

(障害者アートバンクは、2002年4月1日より「アートビリティ」と名称を変更します。)

アジア太平洋障害者の10年
1993年～2002年

コロニー中野・コロニー印刷所(〒165-0023中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山(〒189-0001東村山市秋津町2-22-9)・IT事業本部・デジタルメディアセンター・障害者アートバンク・トーコロ情報処理センター事業部・職能開発室(〒162-0051新宿区西早稲田2-2-8)・大田福祉工場(〒143-0015大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002東村山市青葉町2-39-10) 国分寺戸倉寮 (〒185-0003国分寺市戸倉1-21-9)

時 評

「ひとりひとりが尊ばれる社会のために」

理事長 勝又 和夫
かつまた かずお

平成十三年度の全国および東京都の福祉大会に出席し、いづれも千人を超える出席者の名簿と何人もの方々の顔を見ながら、二つの福祉大会の違いを漠然と心に残る思いで会場を後にしました。

全国は十一月九日に東京国際フォーラムを会場に厚生労働大臣および全国社会福祉協議会長、中央共同募金会長による表彰等が行われ、東京は十一月十四日に日比谷公会堂で東京都知事および東京都社会福祉協議会長、東京都共同募金会長による表彰等が行われたもので、いづれも五十回目となる記念の大会でした。

その後、何日かが過ぎる中で、心に残ったものの実態がはつきりし、それは厚生労働大臣表彰と東京都知事表彰の違いで、いづれも副大臣と副知事による代理表彰であったものの、厚生労働大臣については「国会審議中のため」との説明があり、一方は当然の如く説明がないままに副知事による代理での表彰がなされました。

私たちの日常においては、大臣や知事といった方々はほとんどの場合はマスコミを通じてしかその様子を知らないかもしれませんが、坂口大臣と石原知事について言えば、坂口大臣はエイズ被害訴訟や狂牛病、ヤコブ病訴訟での「顔の見える存在」との印象があり、石原知事は重症心身障害者施設での文学的発言や議会

記者会見などでの強面の発言など「強くて遠い存在」に思えており、大会の運営方法の違いもあったのかも知れませんが、大臣や知事表彰受賞者にとっては、その人の一生に何度もない出来事のひとつとして「表彰者の姿が見られることに期待があったはずなのに」との思いによるものでした。

* * *

八月二十三日、厚生労働省は「支援費制度担当課長会議」を開催し、その事務大要について明らかにしました。またこのことを受けて十月には「支援費制度の事務大要Q&A集」をホームページ上で公表するなど平成十五年四月一日の実施に向け着実に環境を整えつつあります。その詳細についての意見は別に置くとして、私は次の諸点を提起しておきたいと思います。

① 対等性と選択性を保障するには、現行五十%以上の市区町村で障害者施設ゼロという実態の改善が急務であること。

② 本格的な契約行為を実現するためには、費用徴収を扶養義務者に負わせることや所得保障制度が確立されないままでは政策上のバランスを欠くことになると思われること。

③ 利用者の自立と主体性の確立という視点からみた場合、予算措置を伴う地域権利擁護システムの確立と支援費の利用者本人への直接支給の

仕組みの確立が必要であること。
④ 地域福祉の担い手としての地方自治体関係者や、戦後に一線を画す障害者福祉の改革の事態に研究者などからの発言や提言が見えてこないことが心配であること。

* * *

小泉内閣の支持率八十%台、石原知事や長野県・田中知事の支持率七十%台と驚異的な数字が連続しています。この数字を見るたびに「人は弱いもの、だから強い者に期待し、自分にできないことをやってもらいたい」と思っているのではないかと思います。評論や傍観からは決して望む変化は得られず、どんな小さなことでも自ら汗したことによってのみ望む結果が得られると思っています。現在のような社会の大きな変わり目の中でも私たち大多数の庶民の生活は昨日に続く今日であり、今日に続く明日があり、その明日がいつもと変わることのないものであってほしいと願っているわけ、私たちの仕事はそんな毎日に困ることのないような下支えをし、ひとりひとりのその人なりの生き方から教えられ、応援され、また応援しながら成り立っていると思います。

新しい年の始まりに、改めて人の暖かさと思ふかいの伝わる事業であり続けることを願わせていただきます。

「東京コロニー五十周年 感謝の夕べ」和やかに開催

2001年10月5日、当法人創立50周年を記念して行いました「感謝の夕べ」は、280名の関係各位にご出席いただき、終始和やかな雰囲気の中に、終了させていただきました。改めて御礼申し上げます。お忙しい中、ご出席いただきました厚生労働省ならびに東京都よりのごあいさつを理事長の御礼のごあいさつと共に掲載させていただきます。当日お越しになれなかった皆様にも御礼を申し上げ、今後のさらなるご支援をお願い申し上げます。



狂言



感謝状贈呈

御挨拶

本日は大変御忙しい中、私ども社会福祉法人東京コロニーの五十周年の「感謝の夕べ」に御出席賜り心より感謝申し上げます。

この催しにつきましては、過日発生しました米国における同時多発テロの衝撃的で悲惨な状況により一時は中止の議論もありましたが、この悲しみを越えるためにも敢えて開催とさせていただきます。犠牲になられた多くの方々に心より哀悼の意をこの場を借りて表させていただきます。

◇ ◇ ◇

私たちは太平洋戦争の直後日本全体が荒廃と窮乏に陥っている中で全国各地の結核回復者が社会参加の道を自らの手で開拓すべく生産と生活の場づくりであるコロニー建設に立ち上がりました。東京においては国立中野療養所の結核回復者、医師によつて国鉄客車の払い下げにこぎつけ、これを中野区江古田に運んで作業場と宿舎に改造し、昭和二十六(一九五二)年一月に三名の結核回復者が入居してその第一歩を踏み出しました。

東京コロニーは同じ道を歩む三つの法人が順次合併して今日の姿となったものですが、創立の原点をこの

「汽車の家」におき同年十月一日をもって創立の起点としました。以来五十年間多くの方々の情熱と努力によつて三百五十名の障害をもつ者と三百名の障害をもたない者を合わせて六百五十名が働く九つの社会就労センターを運営するまでの規模となりこの中では知的や精神的に障害を有する者も多数仲間として迎え、年間約七十億円の事業収益を上げるまでに成長させていただきました。

これもすべて公私各方面から賜りました温かなご指導とご支援によるもので、心より感謝申し上げます。ここに厚く御礼を申し上げます。

日本経済の低迷や聖域なき構造改革の進展の中で、私ども社会福祉事業においても社会からのより高い信頼と自らの改革への決意が求められています。すべての人の「完全参加と平等」の実現に向けて私たちは改めてこの半世紀の足跡を振り返りその原点に立って新たな世紀の中ですべての人の幸せのために誓いを新たにさせていただきます。

創立五十周年にあたり各方面の一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

二〇〇一年十月五日

理事長 勝又和夫

挨拶



厚生労働省社会・援護局
障害保健福祉部長

原亮治様

東京コロニー創立五十周年感謝の夕べの開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

はじめに、社会福祉法人東京コロニー並びに本日お集まりの皆様方におかれましては、日頃より、障害保健福祉施策の推進について多大なる御支援、御協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

社会福祉法人東京コロニーは、その前身である中親会が設置したアフターケア中親寮への入居が始まった昭和二十六年十月から今日に至るまでの五十年の永きにわたり、授産施設や福祉工場など障害者等が働く場を提供することを通じて、障害者等の「完全参加と平等」の実現を図ってこられたところであります。また、近年においては、時代を先取りして、IT事業や在宅就労などの新しい取り組みにも積極的に挑戦しておられます。このような貴会の熱意あふれる活動に対し、深く敬意を表するものであります。

厚生労働省におきましては、障害のある人が障害のない人と同等に生

活し、活動する社会をめざすという「ノーマライゼーション」の理念の下、平成十四年度を目標年次とする「障害者プラン」に基づき、障害者保健福祉サービスの充実を図っているところであります。

また、近年の国民の福祉に対するニーズの増加・多様化を踏まえ、二十一世紀にふさわしい利用者本位の障害者福祉サービスの利用の仕組みを構築することを目的として、昨年六月に、社会福祉事業法などの改正を行なったところであります。平成十五年度から、障害者福祉サービスの新しい利用制度である支援費制度が円滑に実施できるよう、万全の準備を行うこととしております。

さらに、平成十三年一月の中央省庁等改革により、「厚生労働省」が発足いたしました。従来、厚生省で行なってきた生活面の支援や授産活動の支援などの障害者福祉施策と、労働省で行なってきた企業などへの就労支援施策について、より一層密接な連携をとって施策を進めていくこととしております。

このほか、IT化が進行する中で、障害者がITの発達を享受し、社会参加をより一層推進することができるよう、情報バリアフリーの推進なども行なっておりま。

障害のある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会こそが全

ての国民にとって真に豊かな社会であり、そのような社会の実現に向け、今後とも皆様方とともに全力で取り組んでまいれる所存であります。

最後に、社会福祉法人東京コロニーの今後益々の御発展と、本日御参集の皆様方の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

挨拶



東京都福祉局
障害福祉部長

橋義人様

本日ここに社会福祉法人東京コロニーの創立五十周年記念「感謝の夕べ」が、このように、盛大に開催されますことを、皆様と共に心からお慶び申し上げます。

東京コロニーは、現在の中野工場があります土地を、国から借り受けた昭和二十六年の十月一日をもって、法人の起点とされ、それから半世紀が経過し、今日を、迎えられました。

この五十年、法人におかれましては、財政基盤の確立、建物の増改築事業の近代化、地域社会のニーズへの適切な対応など、様々な問題に遭

遇され、それらの困難な局面を克服するために、一方ならぬご苦労があったとお聞きしております。

法人の経営を考えるとき、特に、東京コロニーにあつては、調名誉会長を抜きにしては語ることができません。当初からの障害の種別を超えた自立への取組みなど、調名誉会長をはじめとする関係者各位のこれまでのたゆまぬご努力に、心から敬意を表するものであります。

さて、二十一世紀に入り、福祉の世界も大きく変わろうとしています。「高齢者」の分野では、昨年の四月から介護保険制度が始まりました。

「子ども家庭」や「障害者」の分野でも大きな制度改革が進みつつあります。

東京都では、国に先駆けて昨年十二月に、「行政がコントロールする福祉」から、利用者指向の「開かれた福祉」への転換をめざして、「東京都福祉改革推進プラン」を策定いたしました。

これまでの閉ざされた福祉の世界で、多様な事業者を参入させ、競い合つて質の高いサービスを供給せると共に、行政が重点的、効率的に財政を投入して、必要な施策を展開していく考えです。

これまでもすでに、認証保育所の開設、高齢者対策やホームレス対策の充実などと共に、障害をもつ方々の

ために、今後三年間で、グループホームや生活寮、授産施設などを緊急に増設し、施設入所の待機者の解消を図る方針です。今後さらに、地域での生活の場の拡充に力を入れていきたいと思っています。

都といましては、この「福祉改革推進プラン」の考え方を踏まえ、福祉施策の新たな展開に積極的に取り組むとともに、区市町村とも連携を密にして、障害者施策の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

本日お集まりの皆様と共に、東京から新しい福祉社会を築き、協力し合って、東京を再生してまいりたいと思います。

そのための努力を私自身、惜しむことなく傾注する決意であります。

今後とも、社会福祉法人東京コロニーをはじめとする福祉の関係者の皆様には、都の福祉行政に対しまして、一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、勝又理事長をはじめ、東京コロニーの益々のご発展と、ご列席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

感謝状を贈呈

当日は、五十年の歴史を支えてくださった皆様を代表して次の方々に、心を込めて感謝状と記念の盾を贈呈させていただきました。

【贈呈先】

◇三菱商事株式会社

取締役社長 佐々木幹夫様

◇丸井労働組合

中央執行委員長 鈴木 茂様

◇ハイデンハイン株式会社

代表取締役 田中善一様

◇株式会社東京商工社

取締役社長 猪尾泰久様

◇株式会社丸藤

代表取締役社長 後藤和史様

＊文面は同じです。



東村山に新工場

新施設建設委員会

委員長 武者 明彦

土地取得完了

当法人では、来年の十月オープンをめざして新工場（五十人規模の社会事業授産施設）の建設準備が進められています。去る十月十日に関東財務局との間で、建設用地となる国有財産の売買契約締結が完了いたしました。購入に際しては国有財産特別措置法の規定にある、社会福祉事業に供することを前提とした減額売払に基づくもので、承認を得ないで事業計画を変更した場合には、買い戻し特約が適用されるという、十年間の用途指定がついた、なかなか窮屈な内容の契約となっています。

土地の契約が終わったことにより文化財調査、電波障害調査、実施設計等も十二月中旬には完了する見込みが立ち、いよいよ着工に向けて全体が動き出すことになりました。

新工場の建築は平成十三年度日本財団補助事業によるものであり、本来は今年度事業ですが、国有地取得の関係で年度をまたぐ事業となることをご了解いただいているものです。今後は建築業者選定のための指名競争入札、建築請負契約の締結、そして着工の運びとなるわけですが、予定通りに進めば、年明けの一月初旬に着工して来年の八月の竣工、九月中に設備搬入設置、調整を終え、東京コロニーの創立記念日で

ある十月一日に開設の運びになりました。これまで新施設建設委員会を中心に検討を進めてきましたが、年明けからは開設準備室を設置し、これに実務を託していくことになりました。

コロニー東村山第二印刷所

十二月一日の評議員会、理事会において新工場（社会事業授産施設）の名称が決定されました。社会就労センターコロニー東村山第二印刷所です。中野、東村山工場の印刷製本設備を有機的に再構成するとともに、大田工場に匹敵するカラー印刷機と中綴じ製本に対応できる製本のラインを新たに導入するこの工場は、受注規模と仕事の内容に対して、貧弱で老朽化している設備を更新し、機械力で稼ぐべきところにはしっかりと仕事に見合った設備を導入し、内製化を図ることが印刷事業再生の切り札にするという大きな期待がかけられています。

機械設備関連について

土地取得の動きに連動して、設備関係の導入計画の検討を進めていますが、平成十三年度日本自転車振興会補助事業により、中野工場に全自動中綴機と全自動植版機を導入するために業者選定のための指名競争入

札を実施いたしました。メーカー、代理店七社に既存設備も含めたレイアウト案の提示を含めたプレゼンテーションをしてもらい、内容のよかった五社による入札を実施し、最終的には価格で落札業者を決定させていただきました。一月中には設置完了し、繁忙期の年度末に向けて稼働できるように準備を進めています。

これらの機器設備は、来年新工場が竣工した折には他の印刷製本設備とともに移設されることになっていきます。また、平成十四年度日本財団の補助事業では、カラー印刷機などの導入が予定されています。

工場レイアウト

新工場の設備とレイアウトは次のようなものとなっています。一階フロアは刷版、印刷工程です。既存三工場でつくられたフィルムないしは校了データが新工場に集められますが、フィルムは刷版工程を経て既存の印刷ラインへ、データはフィルムを経ないでCTP（コンピュータッ プレート）で直接刷版に出力され、印刷機にかけられます。CTPの導入でフィルム工程がなくなるにより、フィルムを刷版に焼き付ける際に起こる網点の劣化やゴミつきを防ぐことができるため、品質が格段によくすることが期待されます。また、その分の時間短縮が図れ

ますし、もちろんコスト削減にもつながります。

菊半裁（A2判が刷れる）の四色印刷機一台、両面反転機構付二色印刷機五台、単色機一台、四六四裁（B3判が刷れる）単色印刷機二台、菊4裁（A3判が刷れる）の両面印刷機三台、単色印刷機二台といったラインナップになる予定です。

二階フロアは製本工程です。浜松町工場が平綴じ（無線綴じ）中心のラインであるのに対して、新工場は中綴じ中心のライン構成となります。5鞍（A4判本文三二ページに表紙をつけた状態）の中綴じ機に三方断裁機がセットされた中綴じラインと、3鞍（同じく本文二四ページ）の中綴じラインが目玉であり、この稼働を支えるために、折機が四台、断裁機が三台、中、小ロットの無線綴じに対応するためのバインダー二台、自動丁合機四台などで構成されています。

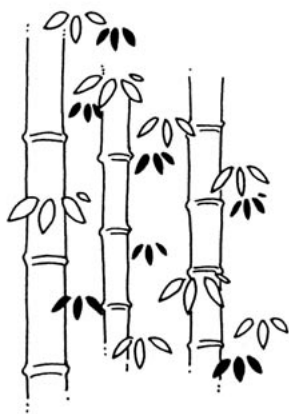
ソフトウェア関連について

ハードウェアの整備に歩調を合わせて、ソフトウェアの整備も進めつつあります。既存三工場から仕事をスムーズに供給するにあたっては、システムが同じになっていることが必要不可欠です。受・発注システム、用紙手配、工程・品質管理、工場間の情報・物流、情報共有など、これを

機に統一していく必要があります。システムサポート部会ではこれまで管理システムそのものを見直すことを前提に議論をしてきましたが、本格的には新工場がきちんと軌道に乗った時点で見直すこととし、開設までは現行システムの存続を図り、最大限活かす方向で乗り切ることになりました。

印刷前工程の独立

多くの障害者従業員が働く印刷前工程については印刷機に版を供給するだけの機能から脱皮し、新たな分野の仕事を開拓する部門へと、大きく変身を図る必要があります。また、新工場を含めた四つの工場を一つのものとして見直した時、例えば工場間のデリバリなど新たな事業になりえるのではないかと思える種も、たくさん眠っているのではないかと思っています。



東久留米市生活寮建設始まる



**東久留米市生活寮開設委員会
委員長 中村敏彦**

○多様な暮らしを応援

東京都は二〇〇〇年十二月に福祉改革推進プランを発表し、戦略プロジェクト―障害者の多様な暮らしのためのインフラ整備を掲げ、障害者が親元から地域での自立した生活へ、「生活スタイルに合わせた暮らし方を選べることをめざしています。知的障害者生活寮は、こうした地域居住の場のひとつであり、就労または通所施設等を利用している知的障害者に対し、生活の場（共同生活）の提供、世話人による援護、食事の提供等を行うもので、地域での自立生活を支援するという地域密着型の事業として障害者の多様な暮らし方を応援するものです。

私も社会福祉法人東京コロニーは都内十カ所に社会福祉施設の設置経営をしており、そこには三百五十名の障害者が主に職業的・社会的自立をめざして所属していますが、こうした運営の中から障害者の地域生活支援の必要性や、近隣施設、地域住民の方々との協力関係の重要性を痛感しています。この度、東久留米市氷川台の住宅地に学芸大付属養護学校の卒業生の親御さん達より七七〇・四三㎡の土地をご提供していただきました。今回、本格的なスタートとなる下記施設の開設を実施することが実現したのも、そのような好条件に恵まれたからこそ感謝している次第です。これを機に東京コロ

ニーでは、本格的な障害者の地域生活支援を充実させることが課せられ、また期待もされることがなりました。何よりも利用される方が安心して、また落ち着ける場所として暮らせる家づくりをめざして運営したいと考えています。

1、経過

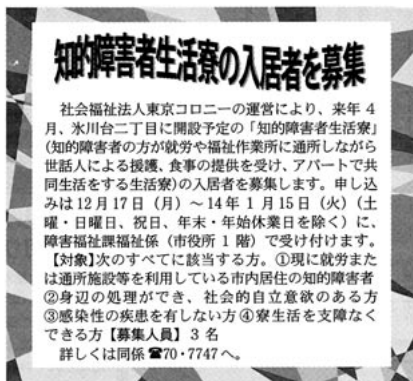
二〇〇一年三月にコロニー東村山印刷所利用者のご家族より、生活寮建築予定に購入した土地があり、運営していただける法人を探しているという相談を受けました。近隣には知的障害者入所更生施設があり、当初はこの施設との関連で施設建設を予定していたものでした。その後、四月～七月にかけて東京都、東久留米市、土地提供者と協議を重ねる中で、東久留米市として「地域福祉計画で、障害者の自立した生活を支援するための重点事業として、民間との連携を図り生活寮の開設を整備目標としていることを確認し、当法人の事業計画と合致すること、さらに障害者の就労に対する支援の観点から、当法人とのネットワークを図れること、地域福祉の充実につながるもの」と判断していただき、法人内に委員会を設置し九月より具体的な準備に入りました。九月二十日に生活寮利用見込み者と面談をする中で、建物に対する利用者のニーズを把握し、十月に東久留米市と当法人の間で地域生活、地域就労支援に関わる協力、連携を推進することの

覚え書を取り交しました。十月三十一日には、土地提供者との間で土地贈与契約会を開催し、正式に土地提供の手続きを終えました。

2、今後の予定

東久留米市の市報（文末をご参照）に利用者募集記事を掲載し、二月はじめに法人事務局ならびに委員会、福祉事務所との間で連絡調整を行い、二月中旬には利用候補者との面談に入り、その後、利用者決定を行なった上で二月末までに開設申請書を東京都へ提出の予定です。

今後、東久留米市や作業所等を通じて利用者の募集、世話さんの確保、生活寮に必要な生活寮管理規定の策定、近隣自治会・地域住民の方へのご案内などを予定し、できるだけ多くの生活寮を見学させていただき、よりよい生活寮の完成をさらにめざす予定です。



広報ひがしくるめ(2001年)12/15号より



中野工場

青い空が憎らしい

雲一つなく、抜けるように青い空。前日までの天気予報を大幅に裏切って、朝早くからガラギラと太陽が照りつける。高くて澄んだ空を見上げながら、初めての試みをテンコ盛りにした「新生コロニー祭り」の幕開けを迎えました。

中野工場でコロニー祭りを開催するのは五年ぶり。しかも、今回の目玉はこれまでのようなバザーでも、舞台でも食べ物の模擬店でもありません。

隣接する北江古田公園に防災コーナ―と福祉ふれあいコーナ―、アトラクションコーナ―の三本立て。さらに、工場の中庭では手作りおもちゃ教室、食堂では手話教室と障害者アートバンクの作品展示、そして研修室でもパソコン（インターネット&お絵描き）教室と展開しました。また、同日開催の『江古田地域祭り』の作品展にも写真サークルの作品を出品しました。

ほとんどのイベントが初の試みだったので、準備段階でも直前になるまで内容の検討や看板類の作成などなかなか詰めきれない場面も多々ありました。



そして迎えた当日。お天気はよいのですが、人の入りが：ポスターや折り込みチラシなどの広報もやってはいたのですが、五年のブランクに加えて初の試みでの来場者の戸惑いと、なかなか人が集まってきました。

せっかく消防署に依頼して設営した煙体験ブースや起震車も、葛飾福祉工場に協力していただいた防災グッズの展示も、集音マイク代わりにがんばった大声コンテテストの審査員も、夜遅くまで練習した手作りおもちゃも、来場者が少なくては、手持ち無沙汰になってしまいます。

コロニー祭り実行委員長の山口文夫さんは「やるだけやったから、今年はこれでよし。あとは、来年に向けて反省することは反省してまたやりましょう。」とコメント。

確かに、これまでにないことばかりを詰めこんで、やや不完全燃焼だ

った今回のコロニー祭りですが、イベントを開催することで、いつもと違った自分たちになってみる経験は、貴重なものだったのではないのでしょうか。

来年は、ほどの天気で、ほどの来客を。そして再来年はもうちょっと練れたところで青空のもと満員の来客を、とステップアップしたいものです。

東村山工場

二十一世紀三十二回目の「コロニー祭」!

東村山名物になったコロニー祭りは第二十一回目を迎え、十月十三日「コロニー祭り21・新世紀の祭りへようこそ!・見せますIT!・東京コロニー50周年」をメインテーマに開催しました。

前々日から当日まで東村山市内と清瀬市内を回った宣伝カー、また近隣への新聞折り込みチラシの効果、さらに真夏のように照りつける陽射しに恵まれ、当日は朝から多くの人達でにぎわい素晴らしい祭りとなりました。

オーブニングは打ち上げ花火の合図で始まり、舞台においては東村山祭り太鼓「鼓楽」のチビッコ和太鼓の演奏、沖縄の心を歌い踊る「シー



「サーズバンド」によるライブ、東村山在住のオペラ歌手（バリトン）の倉田博継様出演によるドイツ歌曲と日本の童謡を熱唱され、限られた時間ではありましたがクラシック音楽に酔いしれたひとときでした。

恒例となった障害者施設の皆さんによるナイスハートバザールも多くの団体の協力もあって、おおいに盛り上がりしました。

模擬店コーナーでは東村山工場と青葉ワークセンターのメンバーによる「焼き鳥」、「やきそば」「おだんご」、「ビール・ジュース」等も店開きし、完売で終わることができました。昨年好評であった工場内部を開放した、インターネット体験コーナー、オリジナルカレンダー、オリジナルメモ帳作りに今年はTシャツプリンターを使ったオリジナルTシャツ作りも加わり、IT時代にふさわしい盛りだくさんのお祭りでありました。

日頃の印刷事業を支えながらの準備で十分とは言えませぬ。しかし近年、社会福祉の中の重要な役割として地域生活支援が謳われています。東村山工場の地域に根ざした地道な活動は、まさに今の時代にマッチした事業であると、従業員一同誇りを持って取り組んでいます。

来年は中野工場のメンバーも含んだ新たな事業所も加わりさらにスケールの大きなコロニー祭りが出来ることと思います。

第二製造課長 桂 真道

大田工場

コロニーフェスティバル大田

はじめに

「出会い・ふれあい・街づくり」のメインテーマのもと、記念すべき十五回目が十一月三日（土）に十時から二時三十分迄、大田工場中庭で盛大に開催されました。

数日前よりはつきりしない空模様のなかで、いつも御世話になっている地域の方々、九社もの協賛企業、そして、元所長を含むOBの方々など三百余名もの参加者を迎えて楽しんでいただけたことができました。

中央舞台

毎回期待の高い中央舞台は、☆バンド演奏 ☆沖縄音楽 ☆腹話術



☆南京玉すだれ ☆ビンゴなどのアトラクションはどれも好評でしたが、なかでも十五名もの出演者で舞台をはみだしたバンド演奏はアンコールを押えるのがやつとというすばらしい盛り上がりで、もう、来年もお願いしたいとの意見が出ている状況です。

各種コーナー

それぞれの職場毎に、工場紹介や販売など九つのコーナーを設け、来場者へのサービスや案内と楽しく、忙しい一日となりました。特に、安くくていい物のバザー人気や、青森りんごの直売は味がいいとの評判で、またたく間に売り切れてもっと売ってほしいとの声が出て、ついに初めて再注文販売といううれしい悲鳴となってしまいました。

おわりに

このイベントを成し遂げるまでには二カ月前より各職場の代表役員は

日常の仕事を受け持ちながら、仲間同志で協力・工夫しながら残業することなく、定時間内で準備をし、当日も、終了間際の雨にうたれながらも従業員が安全に配慮して、事故もなく終了することができました。

地域の方々、協賛企業の皆様、全従業員の御協力・御支援どうもありがとうございました。

（大田工場フェスティバル実行委員

柳沢武志

葛飾工場

創立三十周年記念旅行

「目的地・グアム島、実施日…第一班十一月十四日～十七日、第二班十一月二十日～二十三日の三泊四日で社員旅行の準備に入ってください。」と六名の実行委員が選任され、記念旅行の準備に取りかかったのは本年四月のことでした。旅行会社・航空会社・宿泊先の選定など、思いのほか幅そうした事案のなかでも、米国における同時多発テロに関連しての安全確認に多くの時間を費やすこととなりました。

第一日目。気温九℃の寒い朝五時四十五分リフトバスにて成田空港へ向け事業所を出発。朝焼けの中を飛び立つ旅客機を目前にし、一同馳せる思いで空港出発ロビーへ。出国手



続きを終え全員機上の人となりました。水平飛行に入るとすぐに機内サービスが始まり、陽光が降り注ぎ一層華やいだ雰囲気の中、三時間半もあっという間に過ぎて、グアム時間二時半に到着。気温二十九℃。到着ロビーより一步外に出ると、南国特有の暖かい空気に包まれ、出発時の寒さは嘘のように、着ていた上着を脱ぎながら海外に着いたことを実感させられる陽気でした。

ホテルに入ると、ロビー正面突き抜けにサンゴ礁に囲まれた大海原を望むことができ、またまた満足。その日の夕食は全員で会食となり、その後プールではしゃぐ人、買い物に出かける人などいろいろでした。

二日目は半日市内観光をし、免税店では車椅子を漕げないほどのお土産を買い込み、周りに迷惑をかけていたご婦人もおりましたが、日本とは異なり色とりどりの大きな花や、

今にも落ちてきそうなヤシの実に心踊らせみんなが王様になったように、「恋人岬」では眼下に広がる海にイルカの群れを見ることができ、一同ダイマンゾクでした。午後からは自由行動となり、オプショナルツアーを利用して島内散策に出かけたり、ホテルのプールでバレーボールに興じたりと数多くのアトラクションに参加させていただきました。なかでも元パラリンピック・アーチェリー選手だった青野氏はすべての矢の的中心に命中させ、インストラクターから「You are great.」と称えられメダルを贈呈されましたが、プールサイドでのゲームで子どもたちに配るメダルと同じだったのには、がっかりしていたようです。

以上、ひとつまみのみを記しましたが、参加者全員が無事帰国できたことは何より幸甚とするところで

最後に、旅行の準備から関わっていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

（総製 岡部信之

トーコロ青葉ワークセンター

鴨川シーワールドで童心にかえる

朝いつもより早い八時二十分集合。各自タイムカードを押して作業

場にて出欠を取り、全生園の駐車場までまぶしい太陽を受けながら歩いて向かいました。三台のバスに分乗し横浜まで一直線。しかしながら道路の混雑により大幅に遅れてしまいました。バスの中はカラオケ大会で盛り上がりおりました。

当初予定していた横浜中華街のコース料理は過去の経験上無理があるということ、ホテルのバイキングと変更になりましたが、好きな料理



に何度も足を運びお腹が一杯になったところで、かんぽの宿鴨川へ。部屋に入って、お風呂の準備。部長さんの号令のもと皆でお風呂にゆっくり入り一日の疲れをとりました。

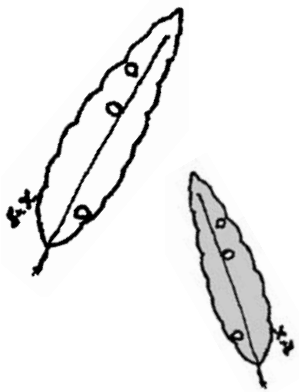
一泊旅行のメインである宴会。ここでもまた食べ終るや即、カラオケとなり、曲選びに忙しく声をかけても顔を上げません。みんな普段の顔とは大違いで「こんな一面も持っているんだ」と感嘆しました。これか

らも一緒に仕事をする喜びを得た気がします。鴨川シーワールドは宿から十分足らずで、歩いて行きました。九時半から始まるベルーガのショーを皮切りに、イルカ、シャチ、アシカと次々廻って、各々の可愛い姿に笑顔と拍手を贈りました。グループごとの行動で、いつも皆が揃っているかを確認しながら、そして自由に遊び、事故もなく終了しました。

青葉ワークセンターに来て、初めての旅行に参加し他の事業所にはない経験をしました。従業員の慰安旅行とはならず、神経を使い果たした方も居たようですので、来年は代わってあげたいと思っています。

ボランティアとして参加して下さったIT・法人の皆さんありがとうございました。従業員の方々お疲れさまでした。

（総務部長 米野敏子



IT事業本部

「こどもe.com」スタート

デジタルメディアセンターでは、十月五日の東京コロニー創立五十周年を記念して、オリジナルWEBサイト「こどものe.com」をスタートさせました。これは、子どもたちの絵画を一点三百円という低価格でデジタルデータ化し、WEBサイト上に公開するというサービスです。

会員になると、独自のページを持つことができ、一歳から十五歳まで、一月から十二月までそれぞれの作品をカタログ化して保存できます。

お子さまをお持ちの方ならご存じのように、子どもたちは絵を描くことが大好きです。一歳くらいから紙に何かを描く作業に夢中になり、暇さえあればお絵かきごっこをしているはずです。テレビゲームが全盛となり、パソコンの普及が進んだ現在でも、子どもたちのお絵かき好きは変わりません。絵を描くということは、言葉を話すのと同じくらい自らの主張を表現することであり、彼らの成長の過程として必要不可欠な作業なのです。

しかしながら、子どもたちの絵画が大切に保存されるという事例はあまりありませんでした。親であれば

誰でもその重要性を理解してはいるのですが、あまりに大量に描くためにその保存方法に苦慮していたのです。押入に保存したものの、時間の経過と共に紛失した事例は多くの人を経験していることでしょう。

「こどものe.com」は、そんな親たちのために大切な子どもたちの作品をデジタルデータの形で永遠にストックし、絵画による成長記録をつくりませんかという、新しい提案でもあります。子どもの作品に自由に



コメントを入力できるシステムにより、何の変哲もない落書きを貴重な思い出に変身させることができます。絵を元にして親子のコミュニケーションションも広がっていくのではないのでしょうか。

デジタルメディアセンターではこのサイトを従来の受注生産型事業からの脱却と位置づけ、将来の事業の中心となるべく育てていこうと考えています。どうぞ、こうした趣旨を

ご理解のうえ、「こどもe.com」へのご参加・ご協力をお願いいたします。

(DMC所長 戸原一男)

法人本部

法人表彰

本年度の法人表彰式は、創立五十周年記念「感謝の夕べ」と重なったため、例年実施している法人としての表彰式の日程調整ができず、事業所単位で実施されました。

法人トータルでの受賞者は、永年勤続十八名でした。また、五十周年に際し、この十年間の功績について各事業所の推薦を受けて審査した結果、九名が奨励賞を、二事業が考案賞を受賞しました。

奨励賞は、トーコロ情報処理センターの入力部門での牽引役となった方、葛飾福祉工場における商品管理システムの構築に貢献のあった方と新商品の開発や営業活動が顕著であった方、大田福祉工場では業務遂行に貢献のあった方、中野工場ではDTP部門の立ち上げに貢献された方、東村山工場では総務部門で業務遂行に中心的な役割をした方とDTP部門の確立に貢献された方、トーコロ青葉ワークセンターでは情報処理部門で模範的な作業遂行をされた



東村山工場の表彰式

方と身体・知的・精神障害者通所授産施設を合築して以来中心的な役割を担った方がそれぞれ受賞されました。

考案賞は、二つの事業が受賞対象となりました。一つは、トーコロ情報処理センター職能開発室の事業で、重度身体障害者に対する情報処理分野での教育、就労支援、雇用支援の先駆的取り組み。もう一つは、障害者アートバンク事業で、障害者の芸術作品をデータベース化して商品展開を行い、その成果を作家に還元する事業への取り組みで、共に社会的にも高い評価を受けています。

以上の内容を見ますと、私達の事業が、このように日常的に創意工夫や努力をしている人達に負っていることに改めて気付かされます。

福祉を取り巻く環境は日増しに厳しさを増していますが、当法人の事業に参加する全員が同じように建設的な取組みを続けていく限り、我々の将来は明るいと確信します。

(総務課長 下田尚登)

上半期総括事業報告

1、はつごう

政府による社会福祉基礎構造改革は、本年八月に支援費支給方式に関する事務大要が厚生労働省から示されるなど具体化がされつつあり、こうした中で、当法人は、全国社会福祉協議会をはじめ、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ等で一定の役割を担うとともに事業所が所在する区市等との関係づくりにも積極的に取り組んだ。

また、六月二十五日付で調理事務長が病氣療養のため辞任し、後任の長尾理事長も九月七日付で病氣療養のため辞任する事態となり、九月八日付で新理事長に勝又和夫が就任し、本年度中を目処に止むを得ず専務理事および事務局長を兼務する体制とした。

当法人の主力事業である印刷業は、本年度に入ってから非常に激しい事業運営を強いられており、こうした中で来年度に開設する新工場の建設に向けて種々の取組を行った。

情報処理事業は、IT事業本部のトータル情報処理センター職能開発室、トータル情報処理センター事業部、デジタルメディアセンターの各事業において、厳しい社会状況ではあるものの関係者の協

力や自らの改革の意志のもとに事業展開を図り一定の見通しを得つつある。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業は、防災部門の売上高が堅調であることと、製袋部門および縫製部門においても東京都をはじめ各地方自治体、各種団体等からの受注活動が効果を生み前年比で相当な事業好転となっている。

メルサービス事業は、事業的には課題を残したままであるものの、補助金等を含めた事業トータルでは、堅調に推移している。しかし、事業の抱える課題については、下半期以降、その改善が求められる状況にある。

地域生活援助事業については、第二号の生活寮を年度内に東久留米市内に建築する目処をつけたが、国分寺戸倉寮は欠員状態が解消されず、法人としての生活施設への取組みの本格化が求められる状況で推移した。

2、個別事業状況

(1) 法人本部

法人全体の全般的諸問題の処理、各事業所の運営を事業計画に沿って確実に行なうために必要な実務を行なった。また、理事長が相次いで辞任したため、現理事長が専務理事・事務局長を兼任する

体制で法人機能を維持するとともに五十周年事業を予定どおり実施するための取組を行なった。

新たな社会事業授産施設（印刷工場）を開設するための取組みでは、国有地の払下げが確定し、工場建設を確実にするとともに社会事業授産施設コロニー中野の用途変更についても具体的な取組を行なった。さらに東久留米市内における新たな生活寮の年度内建築を確実なものとした。なお、コロニー中野の本年度機器整備事業である日本自転車振興会補助金による印刷設備の機種選定に取り組み、年内執行に目処をつけた。

(2)

情報処理事業（トータル情報処理センター職能開発室、トータル情報処理センター事業部、DMC、トータル青葉ワークセンター）

トータル情報処理センター職能開発室は、東京都重度身体障害者在宅パソコン講習事業（教育）、有料職業紹介・コンサルテーション事業（雇用支援）、SOHO支援事業（就労支援）の事業活動により、社会的な評価を受けつつあるものの、次年度以降の事業のあり方について補助先等との協議を進めつつある。

トータル情報処理センター事業部は、黒字を計上できる見込みではあるが日常の一つ一つの積み重ねが結果につながっている状況で

ある。
D M Cは、デジタル分野における先進的な取組みを課題としているが、上半期は、子どもの絵コマを発足させるための投資を行なったこと等により赤字となったが、年度をとおしての黒字化については目処をつけつつある。
(3)印刷事業（コロニー中野、コロニー印刷所、コロニー東村山印刷所、コロニー東村山、東京都大田福祉工場）
印刷事業は前年度より大幅に売上高が減少し、苦しい経営状況が続いている。印刷業の需要の変化への対応策としての新たな工場建設に向けて、事業のＩＴ化やＩＳＯ認証取得等を含め抜本的な経営対策が下半期の課題となっている。
(4)縫製、製袋、防災・安全用品等製造販売事業（東京都葛飾福祉工場）
防災・安全用品等製造販売事業は売上高の維持を図るため都・区市以外の県・市に対する営業活動や民間を主体とした販売活動に力

を入れた結果、売上高を伸ばし堅調に推移した。縫製部門、製袋部門においても受注対策による売上増があり前年より大幅な改善となった。
(1)メールサービス事業（トーコロ青葉ワークセンター、トーコロ青葉第二ワークセンター、トーコロ青葉第三ワークセンター）
メールサービス事業は、売上高が製造費・販売費の合計額を下回り、事業外の収益により黒字を計上しており、事業での黒字化が課題として残されている。
(1)清掃事業（トーコロ青葉第三ワークセンター）
合築施設全体の業務を行なう外、東村山工場の館内清掃や全生園の施設清掃や野外清掃等を行っている。
3、その他の事業状況
(1)上半期経営状況および本年度決算見込みは表「総括決算損益推移表」（次頁に掲載）に示すとおりである。
(3)「在籍者の推移」は、全事業所合計でＩＴ事業本部におけるO N E S T E P企画の解散による障害者一名の減により、六百三十五名（障害者比率五十三・七％）となった。
(3)施設利用者に対する工賃は、知的・精神障害者の額は増えたもの

在籍者の推移

在籍者の推移		自2001年4月1日 至2001年9月30日						(単位：人)
		前年度末 在籍者数	期 中 増 減		法人内異動を除く主な減員理由			上 期 末 在籍者数
			増 員	減 員	自己都合	転勤など	疾病,その他	
	雇 用 就 労 者	134	1 (1)	8 (2)	1	2	5	127
	授産施設の利用者	192	6 (3)	8 (2)	6	2	0	190
	パ ー ト 等	10	1 (1)	1 (0)	0	0	1	10
	訓 練 生 等	18	10 (0)	14 (1)	2	1	11	14
障害をもつ就労者 計		354	18 (5)	31 (5)	9	5	17	341
障害をもたない就労者		294	16 (8)	16 (8)	6	8	2	294
合 計		648	34 (13)	47 (13)	15	13	19	635

(注) () 内の数字は法人内異動をあらわします。

2001年度授産施設利用者の工賃状況 (残業手当含まない)							(単位：人・年・円)
	基礎データ			工 賃			
	人数	年齢	年数	基本工賃	手当	合 計	
合 計 (総数)	189	34.6 (6,536)	5.6 (1,067)	52,962 (10,009,775)	2,224 (420,250)	55,185 (10,430,025)	
身体障害者 (総数)	96	39.3 (3,770)	8.2 (790)	68,269 (6,553,868)	3,396 (326,000)	71,665 (6,879,868)	
知的障害者 (総数)	68	27.1 (1,845)	3.7 (250)	39,962 (2,717,407)	926 (63,000)	40,888 (2,780,407)	
精神障害者 (総数)	25	36.8 (921)	1.1 (27)	29,540 (738,500)	1,250 (31,250)	30,790 (769,750)	

(4)本年度より開始した「苦情解決事業等」については事業所毎に苦情件数や内容等に差があるものの、第三者委員による会議も二回開催するなど本格的に機能しはじめた状況にある。
の全体ではやや前年を下回るものであった。

(賞与見込みの月割額基準額)			
	月額工賃	賞与月割額	合 計
身体障害者	71,665	20,818	92,483
知的障害者	40,888	15,505	56,393
精神障害者	30,790	2,462	33,252
合計(平均)	55,185	18,561	73,746

＊年間支給総額＝73,746×189人×12ヶ月＝167,255,928円

総括決算損益推移表

(単位：千円)

		1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度
１．法人本部（含 生活施設）	仮 決 算	△4,430	△6,810	△10,038	△13,425	△32,460	△23,360
	決 算	24,821	25,695	4,524	16,144	△11,479	＊ 11
	損益累計	56,092	81,787	86,311	102,455	90,976	＊ 90,987
２．ＩＴ事業本部	仮 決 算	△11,016	△15,948	△3,672	△655	△15,651	＊ △7,661
	決 算	2,429	432	5,843	3,182	8,052	＊ 10,642
	損益累計	12,159	12,591	18,434	21,616	29,668	＊ 40,310
（１）職能開発室（含 事務局）	仮 決 算	－	－	－	－	1,146	567
	決 算	－	－	－	－	3,934	＊ 637
	損益累計	－	－	－	－	3,934	＊ 4,571
（２）デジタルメディア （含 アートバンク）	仮 決 算	△1,741	△7,344	△3,771	4,105	△21,512	△11,153
	決 算	△670	△4,112	1,013	275	△4,047	＊ 80
	損益累計	7,766	3,654	4,667	4,942	895	＊ 975
（３）トーコロ情報処理 センター事業部	仮 決 算	△9,275	△8,604	99	△4,760	4,715	2,925
	決 算	3,099	4,544	4,830	2,907	8,165	＊ 9,925
	損益累計	4,393	8,937	13,767	16,674	24,839	＊ 34,764
３．印刷事業計	仮 決 算	△129,516	△110,112	△160,985	△69,409	△64,822	△167,130
	決 算	△115,416	△153,738	△143,221	△29,159	569,154	＊ △6,259
	損益累計	△524,004	△677,742	△820,963	△850,122	△280,968	＊ △287,227
（１）一般会計 （含 カラーセンター） ※カラーセンターは97年まで	仮 決 算	△5,815	△18,180	8,606	7,002	8,042	7,887
	決 算	△18,988	△31,841	17,997	14,215	16,451	＊ 15,100
	損益累計	△53,208	△85,049	△67,052	△52,837	△36,386	＊ △21,286
（２）コロニー中野 （含 コロニー印刷所）	仮 決 算	△46,849	△41,404	△75,281	△29,233	△9,439	△46,304
	決 算	△63,803	△80,814	△99,898	△49,310	408,782	＊ △24,059
	損益累計	△208,622	△289,436	△389,334	△438,644	△29,862	＊ △53,921
（３）コロニー東村山印刷所 （含 コロニー東村山）	仮 決 算	△28,399	△6,226	△44,215	△6,463	△21,029	△30,648
	決 算	842	1,675	△34,500	5,480	143,529	＊ 2,200
	損益累計	△97,689	△96,014	△130,514	△125,034	18,495	＊ 20,695
（４）東京都大田福祉工場	仮 決 算	△48,453	△44,302	△50,095	△40,715	△42,396	△98,065
	決 算	△33,467	△42,758	△26,820	456	392	＊ 500
	損益累計	△164,485	△207,243	△234,063	△233,607	△233,215	＊ △232,715
４．トーコロ青葉ワークセンター （含 第二・第三wc）	仮 決 算	3,845	△562	743	△7,356	19,804	3,713
	決 算	4,107	344	1,753	△11,752	29,136	＊ 1,845
	損益累計	△8,639	△8,295	△6,542	△18,294	10,842	＊ 12,687
５．東京都葛飾福祉工場	仮 決 算	159,824	△20,220	△47,092	△29,896	△70,035	△2,513
	決 算	425,801	74,609	15,594	102,243	△7,055	＊ 46,202
	別途積立	△1,200,000	500,000	100,000	0	0	＊ 0
	損益累計	49,666	624,275	739,869	842,112	835,057	881,259
合 計	仮 決 算	18,707	△153,652	△221,044	△120,741	△163,164	△196,951
	決 算	341,742	△52,658	△115,507	80,658	587,808	＊ 52,441
	別途積立	△1,200,000	500,000	100,000	0	0	＊ 0
	損益累計	△414,726	32,616	17,109	97,767	685,574	＊ 738,016

＊見込額



アートバンク ギャラリー 52

む 夢 村さん



■障害者アートバンク

1986年設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。

二〇〇二年初めは、夢村さんの作品です。夢村というのは雅号で、家（大阪市）の近くを流れる淀川の河川敷にある「与謝蕪村・誕生の地」という碑があり、それにちなんで作品を通して夢を与えられたらいいなという気持ちを含めて付けたそうです。

障害者アートバンクでは、平成三年にアサヒビール奨励賞を、平成六年には障害者アートバンク大賞を受賞されています。以下はそのときの喜びの言葉です。

「僕は絵描きとして、また心に病気をもっている一人の人間として常に、優しさ、を大きなテーマとして絵を描いています。今回のこの受賞は、僕と同じ心の病気で社会復帰に向けて頑張っている仲間への、大きな励みになることと信じています。」

また、障害者アートバンクに関わるようになってから、いろんな人との出会いが増え、特に他の障害者との出会いは大きく、話をするなかで、自分の辛さとは違う辛さに気付いたり、自分との共通点を見つけてホッとしたり：仲間に会うと「頑張ろう」という気になるそうです。

自分の描いた作品を見て「心が暖かくなるね」と言われたことがあり、絵を通じて伝えたい自分の気持ち、ちゃんと伝わっているのわかって、嬉しかったそうです。「僕の絵を見てもらうことで会話が生まれ、絵はコミュニケーションの道具になることを改めて感じました。これからもずっと、優しさ、思いやりというテーマで描き続けていきたい」と。そう言う夢村さんの顔は、優しさで自信に満ち溢れていました。いまでも事務局に一カ月に一回は連絡をくださる夢村さん。今後のより一層の活躍を期待するとともに、事務局一同から感謝を込めてこのギャラリーを捧げたいと思います。

（障害者アートバンク事務局 水野多賀子）

第十三回障害者アートバンク大賞に オリジナリティ溢れる太田きよしさん

二〇〇一年十一月九日（金）に、第十三回障害者アートバンク大賞授賞式が開催されました。本年度の各賞受賞者は、第十三回障害者アートバンク大賞には「太田きよし」さん、アサヒビール奨励賞には「秦美紀子」さん、日立キャピタル特別賞には「橋本知佳」さんという、三名の作家の皆さんでした。

中でも大賞の太田きよしさんは、右脳損傷という、芸術家にとって致命的な障害を負いながら、見事テラコッタ制作により芸術家として復活。その傍らにはじめた絵画制作では、右脳を損傷したことによって生まれた独特な画法と、彼本来が持っていた感覚が見事に溶け合って、オリジナリティ溢れる作品を描いています。選考会では、満場一致での受賞でした。

会場は、昨年に引き続きアバコブライダルホール。作家とユーザー様との賑やかな会話が会場内に広がり、明るく和やかな式典となりました。また、大賞と並行して開催された大賞作家作品展も大変好評で、来年度も開催する予定です。

（事務局 水野多賀子）



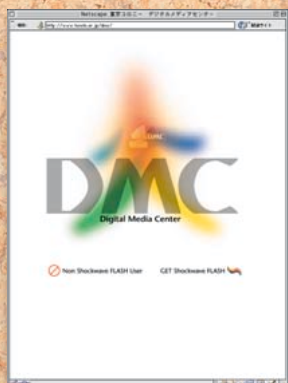


東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>

東京コロニーの ホームページ



コロニー中野・コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



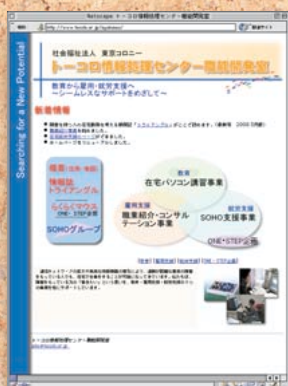
デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



IT事業本部事務局
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/>



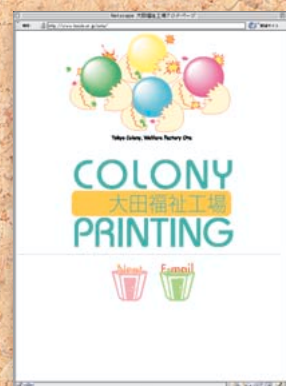
コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



トーコロ情報処理センター機能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



アートビリティ 旧 障害者アートバンク
<http://www.art-bank.net/>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>